

やまびこ

発行日：平成 25 年 10 月 発行：高山赤十字病院 高山市天満町3丁目11番地 TEL 0577-32-1111 発行責任者：地域連携課

「重度心身障がい児者の訪問看護活用モデル事業」について

医療社会事業部

新生児医療の進歩により救命される児が多くなる一方で、継続的な医療的ケアが必要な状態で退院しなければならない状況にあります。人工呼吸器装着など高度の医療的ケアを必要とする超重症児が地域で暮らしていくためには、医療機関、訪問看護ステーション、福祉サービス事業所や行政など多くの支援機関が連携し、児と家族をサポートしていく必要があります。しかし、飛騨地域にはこのような社会資源が乏しい現状があります。これは飛騨地域だけの問題ではありません。

そこで、当院では、岐阜県や関係機関と「障がい児者訪問看護活用モデル事業」を検討しました。これは、日々ケアを行っている外部の訪問看護師を当院の非常勤職員として雇用し、当院小児科病棟でショートステイを行うというものです。いつも訪問してくれる看護師が継続して児をケアすることで、児や家族が安心してショートステイを受けることができます。また、看護師不足といわれるなかで外部の訪問看護ステーションと連携しマンパワーの有効活用ができると考えています。これは「地域連携」のひとつの在り方ではないでしょうか。

小児在宅医療は家族の熱意によって支えられている部分が大いと言われています。高齢者のみならず、療養の場を在宅へと推し進められるなかで、今ある社会資源や関係機関との連携を有効活用する努力や工夫が必要です。

このモデル事業が、重症心身障がい児者とその家族を支える新しい社会資源として地域に根付いていけばと思います。



岐阜新聞2013年9月14日付掲載（岐阜新聞社提供）

目次

- 「重度心身障がい児者の訪問看護活用モデル事業」について … 1
- NST講演会報告 … 2
- スキンケア勉強会を開催して … 2
- 第14回 地域連携症例検討会報告 … 3
- 第5回 地域脳卒中連携研修会報告 … 4
- 放射線治療システム更新に伴う治療中止について … 5
- 世界糖尿病デーについて … 6
- 研修・講演・勉強会のご案内 … 6
- 新任医師の紹介 … 7
- 退任医師 … 8
- 平成25年度 第2回地域医療連携検討委員会の報告 … 8
- 編集後記 … 8

NST 講演会報告

平成 25 年 7 月 5 日 (金)



経腸栄養から経口栄養へ

～栄養ケアの原点は口から食べていただくこと～

梶山女学園大学生生活科学部

加藤 昌彦 先生

ここ数年、臨床現場では栄養ケアが大変注目されるようになり、多くの病院で栄養サポートチーム (NST) が、患者さんの栄養ケアを担うようになってきました。適切な栄養ケアにより患者さんの栄養状態が改善すると、疾患の治療成績は向上し、生活の質 (QOL) は高まり、健康寿命を延伸させます。

さて、栄養ケアの第一歩は栄養補給です。栄養補給には、口から食べる (経口栄養)、チューブを通して流動食を胃に送り込む (経腸栄養)、血管の中に直接栄養を注入する (静脈栄養) 方法があります。疾患の性質上あるいは治療の必要上、口から食べられない患者さんはいます。しかし、本当は口から食べられるのに、口から食べていない患者さんもいるのです。私たちがすべきことは、口から美味しく楽しく安全に食べていただき、その結果、患者さんの栄養状態を改善させることです。そのためには、患者さんをよく診て、患者さんとよくお話してください。栄養に関心が高まってきた今だからこそ、点滴 (静脈栄養) や昨今話題の胃瘻 (経腸栄養) など、安易な栄養補給に走るのではなく、口から食べていただく栄養ケアを忘れないでください。



スキンケア勉強会を開催して

皮膚・排泄ケア認定看護師 渡邊 洋子

この度、8月3日と10日に地域公開講座として、褥瘡対策チーム主催によるスキンケア勉強会を開催致しました。院内だけではなく、地域の看護師や医療職の方々とともに、日々進化する医療環境の中、スキンケア・褥瘡ケア・ストーマケアなど最新の知識・技術の習得など、また実習を取り入れ現場で生かせる内容を企画しました。

内容は、

8月3日 (土) 9:00～15:30 褥瘡予防とスキンケアの基本、胃瘻やフットケア

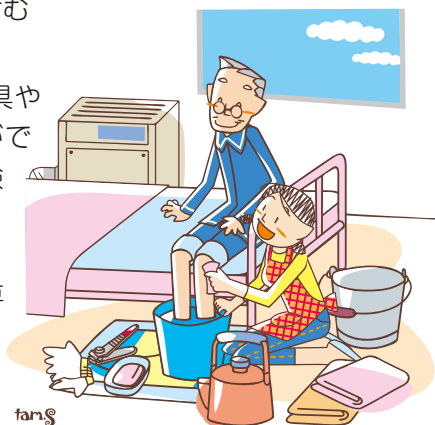
参加人数 56名

8月10日 (土) 9:00～12:00 ストーマケア、実習含む

参加人数 39名

褥瘡予防では、医療機器業者の協力を得て、体圧分散寝具やポジショニングなどで、体圧の分散を視覚的に見ることができ、またストーマケアの実習では、ストーマ装具の装着体験や実演など、とても勉強になり有意義な内容であったとの評価を頂きました。

当院では、皮膚・排泄ケア認定看護師が3名おり、日々専門分野での実践・指導・相談に応じております。院内だけではなく地域の施設や訪問看護ステーション等の相談にも応じておりますので、何時でもご相談ください。



第14回 地域連携症例検討会報告

平成 25 年 9 月 25 日 (水)

今までに紹介頂いた症例を中心に



皮膚科 市橋 直樹

現在、医療は急激に進歩しています。ついには1月のレセプトが1億円を超える症例が登場したり、治療薬においては腫瘍に対する分子標的製剤や炎症性疾患に対する生物学的製剤の登場など枚挙にいとまがありません。ただ恥ずかしながら皮膚科領域においてはここまで急激な進歩はありません。

最近になりダーモスコープが保険適応を認められるようになりましたが、これ自体はのぞき込めば診断が見えるというような物ではなく結局パターンや色調のムラなどを総合的に判断するというものであり他科の進歩に比べると小さな進歩です。又、皮膚科領域で腫瘍性病変を診断する時には、一番鑑別にあげなくてはならない悪性黒色腫は、まだ基本的には生検は推奨されておらず血液マーカーは、一般的には検査することができないなど臨床的な診断が重視される反面、外陰部パジェット病などは一見湿疹病変に間違えますが、確定診断には生検が確実であると言ったような矛盾を含んでおります。

今回は、この点を踏まえ数多くの紹介いただいた患者様の中から腫瘍性病変に関してまとめて供覧させていただきました。

紹介頂く網膜硝子体疾患について



眼科 杉谷 和彦

当院眼科では、眼科全般の手術治療に対応しておりますが、特に網膜硝子体手術に関しては、現在最も低侵襲な25ゲージ小切開硝子体手術システムを使用し、ほぼすべての網膜疾患治療に対応しております。飛騨地域においては当院のみおこなっており、緊急症例も含め、手術目的にご紹介も多く頂いております。今回は、硝子体出血を繰り返している増殖糖尿病網膜症、アトピー患者の巨大裂孔網膜剥離、内境界膜剥離が有効であった眼内炎、巨大脈絡膜血腫をとまなう眼外傷の症例について報告させていただきました。今回の検討会では、実際の手術映像を供覧していただき、他科の先生方には馴染みのない硝子体手術のイメージとともに、網膜疾患の病態についても説明させていただきました。

今後、網膜硝子体疾患については、次世代手術機器がでてきており、さらに低侵襲、短時間での手術が可能になっていくと思われます。

第5回 地域脳卒中連携研修会報告

(飛騨保健所生活習慣病医療連携推進事業)

平成25年9月19日(木)

高次脳機能障害の診療と岐阜県の現状

木沢記念病院 中部療護センター
岐阜大学連携大学院医学系研究科脳病態解析学分野
篠田 淳先生



救急医療の進歩により多くの交通事故による重傷頭部外傷患者の救命が可能となりました。一方、急性期の危機を乗り切ったこれらの人たちの中には障害を後遺し生活制限を余儀なくされている人たちもたくさんおられます。従来、意識の障害、身体の障害など一見してその存在が理解される障害は社会的に注目されてきましたが、記憶・記力障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの「見えない障害」を後遺し社会に適応できない人たちの存在は十分理解されてきませんでした。日本政府は平成18年から彼らに「高次脳機能障害」という傷病名をつけ、障害者として行政支援の対象とすることにより、自立と社会参加へ向け包括的な取り組みを開始しました。

厚生労働省の高次脳機能障害診断基準では、本障害の診断に際し上記臨床症状が存在することの他、CT、MRI等で脳の器質的疾患が確認されることが必要とされます。脳挫傷や重度のびまん性脳外傷は慢性期においても従来のCT、MRIで脳の器質的異常を比較的容易に捉えることができます。しかし、臨床症状が存在しても急性期の画像で異常が認められず、かつ受傷時意識障害も軽度であった症例では診断に大変苦慮します。近年、MRIの新しい撮像法の開発、SPECTやPETによる脳代謝検査の普及はめざましく、従来の画像では確認できなかった脳の器質的損傷を捉える画像を作成することが可能となりました。これらの画像の進歩は従来「見えない障害」と呼ばれてきた高次脳機能障害を「見える障害」へ移行させつつあります。

岐阜県は平成13年度に厚生労働省が展開した「高次脳機能障害支援モデル事業」に全国先進12都道府県・地域の一つとして当初より参加しました。平成18年度よりこの事業は「高次脳機能障害者支援普及事業」へ移行し、全国全ての都道府県に支援拠点が設置され、岐阜県では岐阜県精神保健福祉センターが「高次脳機能障害支援拠点機関」、木沢記念病院が「支援拠点病院」として活動しています。平成24年度より「岐阜県高次脳機能障害支援普及ネットワーク会議」が発足し県内の5つの圏域に1名の圏域コーディネーターと数か所の協力医療機関（飛騨地区では高山赤十字病院脳神経外科、久美愛厚生病院脳神経外科、県立下呂温泉病院脳神経外科の3か所）が配置、設置され地域に密着した形の支援（診断、治療、生活相談、就労支援など）が行われるようになり、岐阜県でも医療、行政、福祉、患者及び患者家族が一体となった組織だった事業が展開できる兆しが見え始めました。この支援事業が岐阜県において着実に発展し高次脳機能障害患者と家族の心強い支えになって行くことを願ってやみません。皆さまのご理解とご協力を切にお願いする次第です。

放射線治療システム更新に伴う 治療休止について

放射線科部 坂本 清隆

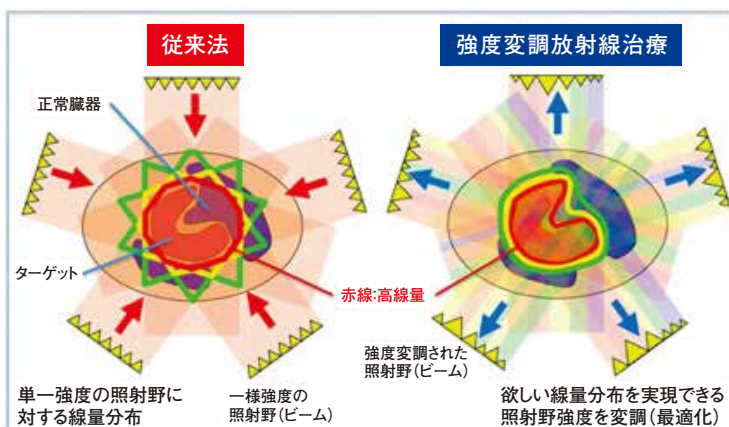
約10年前に導入された当院の放射線治療システムが更新されることになりました。稼働予定は来年の4月です。このため、長期間放射線治療が出来なくなります。

- ① 治療休止期間は本年10月26日から来年の3月31日です。
- ② 治療休止期間についても原則としてこれまで通り毎週金曜日に放射線治療医が来院し、新患の治療計画およびコンサルテーションに対応します。また、治療休止期間についてはこちらで患者さんの希望を伺いながら依頼先の紹介および調整を行います。



今回更新される放射線治療装置は強度変調放射線治療（IMRT）や、画像誘導放射線治療（IGRT）といった高精度放射線治療が施行可能な装置です。頭頸部や前立腺の治療における根治的な放射線治療を行うにあたって、IMRT、IGRTという技術は必須になると予想されており、これらが施行可能であることはこの地域の放射線治療の水準を高めるものと期待されます。また、より進んだ回転系のIMRTも可能であり、従来のIMRTに対して照射時間が約1/8になることから、高齢の患者の治療に有用です。さらに、高精度な位置決めシステムを有していることから、患者セットアップ前の位置確認および、照射中の照射野確認を迅速に行うことが可能で、これにより正常組織への線量を抑え、腫瘍ターゲットへの線量集中度をより高めることが可能です。

長期間の治療休止で大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。



世界糖尿病デーについて

栄養課 村上 一美

毎年11月に行われている世界糖尿病デーがやってきました。

今年は11月10日～17日までの間、飛騨・世界生活文化センターの外観がブルーにライトアップされます。これは「世界糖尿病デー」の認知と糖尿病への意識を高めることを目的におこなわれるものです。

11月14日が世界糖尿病デーと指定され、IDF（国際糖尿病連合）では「糖尿病との闘いのために団結せよ」をキャッチフレーズに、国連や空を表す「ブルー」と団結を表す「輪」を使用したシンボルマーク、ブルーサークルを揚げ、全世界で糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発運動の推進を呼びかけています。国連の決定を受けて、日本においても世界糖尿病デー実行委員会が組織され、全国的なブルーライトアップイベントの実施が行われてきました。

11月16日の夜は、移動式天文台ドリームスター号による、星空観察会

11月17日14時開演で糖尿病を考える講演会

ブルーライトアップ健康食（700kcalのランチ及びディナー）が、ひだホテルプラザ、高山グリーンホテル、ホテルアソシア高山リゾート、ベストウエスタンホテル高山で体験できます。（11月1日～30日）

皆様方お忙しいとは思いますが、お出かけになってみて下さい。



研修・講演・勉強会のご案内

- ・「地域の医師等を対象としたがんの早期診断に関する研修会」
平成25年 11月 8日 (金) 19:30～20:30 高山赤十字病院 本館 3階講堂
- ・「第9回 高山赤十字病院 市民公開講座」
平成25年 11月16日 (土) 13:00～15:00 高山赤十字病院 本館 3階講堂
- ・「第5回 がん診療に携わる医師、職員のための緩和ケアセミナー」
平成25年 11月16日 (土) 15:30～17:00 高山赤十字病院 本館 3階講堂

※詳細は、追ってご案内いたします。

新任医師 の 紹介

- ① 診療科・職名
- ② 氏名
- ③ 専門分野
- ④ 専門医・認定医
- ⑤ 診療に対するモットー
& 自己紹介 など



9月に1名、10月に4名の医師が赴任しましたので、ご紹介致します。



- ① 産婦人科 医師
- ② **大塚 祐基** (おおつか ゆうき)
- ③ 産婦人科
- ⑤ 9月から赴任した大塚です。出身は岐阜市です。高山の医療に少しでも貢献できるように励んでいきますので、よろしくお願いします。



- ① 内科 医師
- ② **大西 雅也** (おおにし まさや)
- ③ 消化器内科
- ⑤ 診療にあたり出来るだけ患者様の意見・希望を考慮しながら行っていきたく思いますので、何かご不満な点・要望あれば気がねなく言って下さい！
よろしくお願いします。



- ① 外科 医師
- ② **浅井 竜一** (あさい りゅういち)
- ③ 外科一般
- ④ マンモグラフィ読影認定医
- ⑤ 患者様一人一人に信頼・安心頂ける医療を常に心掛け診療に当たっています。



- ① 脳神経外科 医師
- ② **山内 圭太** (やまうち けいた)
- ③ 脳神経外科
- ④ 日本脳神経外科学会専門医
- ⑤ 患者さんの事を第一に考え、地域の医療に貢献していきたいと考えています。
趣味はロードバイクです。



- ① 産婦人科 医師
- ② **佐藤 香月** (さとう かづき)
- ③ 産婦人科
- ⑤ 患者さんとの会話を大切にしながら、診療を行っています。
困ったことがありましたら、気軽に相談して下さい。

退任医師

内科医師	杉山 智彦	9月30日付
外科医師	徳丸 剛久	9月30日付
脳神経外科医師	植松 幸大	9月30日付
脳神経外科医師	村井 博文	9月30日付
産婦人科医師	村瀬 紗姫	9月30日付
研修医(歯科)	横山 公香	9月30日付

平成25年度 第2回地域医療連携検討委員会の報告

標記委員会を9月25日(水)に開催いたしました。

地域医療連携検討委員会は、地域医療機関等からの要請に対応し必要な支援を行えるよう審議し定期的に開催される委員会です。

委員会では紹介率・逆紹介率、地域連携の現状などの業務実績について報告をいたしました。又、内科 細江先生より「在宅酸素療法の地域連携について」の演題でミニレクチャーが行われました。

意見交換では、厚労省が考えている「紹介状を持たず大病院に来る人に定額負担を求める方針」について、委員の方から多くのご意見を頂きました。

編集後記

今年は例年になく暑い夏になり熱射病で病院に搬送される方も多かったようです。

かつて経験したことのない特別警報が出たり竜巻が発生したりと異常気象により自然の怖さを思い知らされる出来事もありました。それでも虫の音がきこえるようになりおだやかな天高く馬肥ゆる秋の季節になりました。

各地で運動会なども行われ子供たちの元気な声をきき競技をみると笑顔がもらえます。朝夕は肌寒くなり寒暖の差が体調をくずしやすくなりますが温かいおいしいものを食べて趣味にもいそしみ秋の夜長を楽しみましょう。

医療社会事業課・ケアマネージャー 野中 貴美代



日本赤十字社

高山赤十字病院
地域連携課

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地
TEL : 0577-35-1880 FAX : 0577-32-1165
メールアドレス byoshin@takayama.jrc.or.jp
ホームページ <http://www.takayama.jrc.or.jp/>